

# 教育支援部だより 令和元年度 No.11

コロナウイルス感染拡大予防のため、休校になっている学校は多いかと思えます。本校も卒業証書授与はできたものの、修了式をしないままの年度末となりました。

今年度最後の教育支援部だよりでは、新年度に備え、それぞれの学校で考えてもらいたいユニバーサルデザインについてお伝えします。

## ～すべての子供達の権利を保障しましょう～

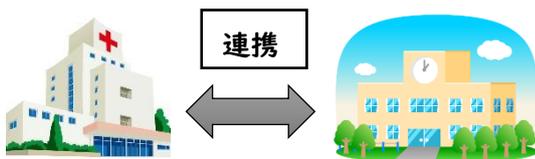
### 発達を保障し、自己肯定感を育てる

○観察だけでなく、検査結果を必ず見ましょう!

→NC プログラム、新版 K 式発達検査、旭出式社会適応スキル検査の結果の活用

○生活年齢を考えた関わりをしましょう!

→プリントに生活年齢とは異なる対象学年や対象年齢(例:5歳プリント)書いていませんか?



○学校だけでは不十分!

→関係機関(病院や訓練機関等)に学校での様子を知らせて、アドバイスをもらいましょう。

○叱らないが、譲らない!

子どもができない、立ち止まってしまっている時

- ① 「なぜ?」と考える。
- ② 「どうしたらできるか?」と考える。
- ③ いくつか方法を提案する。

→選択して「できた!」と本人が思えることを大切にしましょう。

○わかりづらさ、生きづらさにて、見通しが持てるようにしましょう。

→視覚支援や情報を見て確認できる文字情報などの活用を!

入学式 スケジュール表	
① にゆうじょう	
② うたをうたいます	
③ しんにゆうせいしょうかい	
④ こうちょうせんせいのおはなし	

## ～配慮が必要な子供達です～

《情報量が多いとき》

聴覚刺激→言葉による説明は端的に!

《暗黙の了解がわからない》

その場の雰囲気がわかりにくい

→わかりやすい言葉や目に見える形(絵や写真)で説明を

《こだわりがある》

少し違った文字はわかりにくい→なるべく UD 教科書体で統一しましょう。

予定の変更が苦手→絵カード等で事前に説明を!

さ→さ

り→り

## 《感覚過敏》

身体に触られることが苦手→必要がある時には、予め声をかけてから  
暑さ、寒さに敏感→服装や空調で調整  
声や音に敏感→イヤーマフの利用  
光に敏感→座席位置の配慮



## 落ち着いた環境での取組が必要です

雑誌売場を通ると、私の目には次々と雑誌の見出しが飛び込んできます。(中略)雑誌売場を離れても見出しの文字はまだ頭の中に残っています。そのため、緑色や葉っぱ状のものを見ても、それが野菜だということが理解できず、それを自分が買いたいのかどうかさえもわからなくなってしまいます。

出典：『自閉症と感覚過敏』 熊谷高幸



予定ボードははずし、白板をきれいにしてから、授業をしましょう！

プリントや宿題は、置き場所を決めましょう。



刺激にならないよう、棚の中は隠しましょう。



ロッカーには、何があるかわかりやすく整理しましょう。



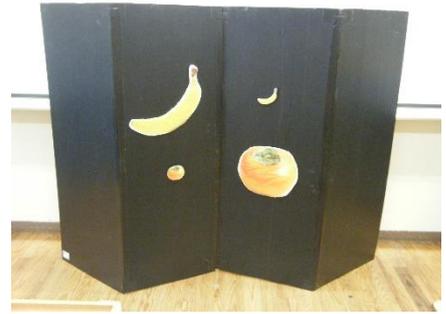
見通しが持てるよう、  
タイムタイマーを活用しましょう。



周りが気になって注意がそれる子どもの学習環境を整えましょう。



教材等、子どもが気になる物は、必要な時まで見えないようにしましょう。



対象物がはっきりと見えるように提示しましょう。

## 今年度のセンター的機能について報告

巡回相談、教育相談、体験学習、学校見学、体験入学、校区内特別支援教育コーディネーター連絡協議会等様々な機能を、校区内の児童生徒、先生方、保護者の方に活用していただきました。

巡回相談は、幼稚園：1回 小学校：9回 中学校：7回 高等学校：1回行かせていただき、一緒に実態把握をし、課題、支援の方法、職員の体制を考えさせていただきました。

その中で、NCプログラム(6歳までの学習のレディネスができているかを見るツール)の貸し出しに至り、小学校で実態把握を丁寧にしてくださった学校もあります。

また、医療との連携が必要だということで、主治医とつながり、子供の発達・成長に向け、共に考えるきっかけとなったケースもあります。

来年度も、少しでも子供達の発達や成長を一緒に応援できたらと思います。